

動力源をリチウム電池へ

小野谷機工がロードサービスカーで新提案

気候変動への対応として環境負荷低減を図る各種の活動が推し進められている。自動車業界の新たな潮流であるCASE

の「Electric

(電動化)もその一環であり、脱炭素化社会実現のキーワードとなり、シフトチェンジが加速している。

タイヤ整備サービス関

連でも例外ではない。電動化への対応を図る取り組みが先般開催の「第37回オートサービスショー

2023」でも見られた。小野谷機工が参考出品したロードサービスカー、ESC(エレクトリック・サービス・カー)コンセプト写真上がそれだ。

その最大の特徴は、コンプレッサの動力源を従来の発電機からリチウムイオンバッテリーへと変更した点。参考出品モデルでは、リチウムイオンバッテリーから正弦波インバーターへと繋ぎ、200Vや100Vの電源として使うことができるよう設計・配置した写真下。

従来の発電機と比較し、スペースユーティリティを大幅に高めた。また静音性に優れており作業環境の向上を実現。車両の軽量化を図り、燃費性能もアップした。

同社ではESCコンセプトの実用化とロードサービスカーへの実装に向け、鋭意開発を進めている方針だ。

ESCコンセプトの実現化に向け開発を推進



電動化で環境負荷低減

